

委託事業実施内容報告書
平成25年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 聖徳大学

- 1. 事業名称** 生活者支援になり得る日本語授業を具体的にデザインするための研修事業
- 2. 事業の目的**
- ① 外国人の生活行動の支援となるCan-do型授業の具体的な展開の仕方を研修する。
 - ② 日本語ボランティア組織に、“生活支援となり得る日本語指導”という観点が無理なく受け入れられる施策を検討する。
- 3. 事業内容の概要** 平成24年度に本学が実施した文化庁委託事業「振り返り評価を重視したCan-do型学習の施行事業」では、従来の形式的文型指導から真に「外国人の生活支援となり得る日本語教育」に転換していくため、ポートフォリオ(特に振り返りシート)による評価を通じて、指導の効果を正しく把握することで、フィードバックを促す発想を取り入れた指導方法を研修した。
- 平成25年度では、この成果を踏まえつつ、①Can-do型授業のより具体的展開法を検討しつつ、②その理念をどのようにしたら日本語ボランティアの組織全体に受け入れてもらえるか、その方策を研修する。「外国人の生活支援たり得る日本語指導」という理念が威圧的に押し付けられるという形をとるのではなく、「日本語指導をおこなう目的」と「現状の日本語指導の問題点を正しく捉える視点」から、実感を伴った効果的な日本語教育に携われる方法、留意点などについて検討した。
- 平成24年度に引き続き、松戸市国際交流協会日本語教室と連携してCan-do型日本語教室を設置した。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年5月16日 15:30～18:30	3時間	聖徳大学北村研究室	林 史典 北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 委員の紹介 2. 委託事業の実績報告 3. 今年度の委託事業説明 4. その他	1. 運営委員自己紹介 2. 委託事業の実績報告 平成20年度～平成24年度の報告 3. 今年度の委託事業説明 ①事業の名称、目的、概要 ②日本語教室運営(松戸市において「生活行動を実現するための日本語教室」) ③教員養成講座(Can-do型授業への推進に基づく教室運営と指導者へのアピール方法を検討する研修授業) ④教材作成(Can-do型授業を導き、その効果を確認する教材の作成) 4. その他
2	平成25年5月23日 15:30～18:30	3時間	聖徳大学7号館会議室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢明美(コーディネーター)	1. 今年度の委託事業確認 2. 役割分担など 3. その他	1. 今年度の委託事業確認 ①名称:生活者支援になり得る日本語授業を具体的にデザインするための研修事業 ②教室運営1学期のカリキュラムと態勢 ③教員養成講座の受講者数などの確認 ④教材作成の予定 2. 役割分担 教員養成講座および教室活動における担当確認(記録、報告など) 3. その他 ①質問や意見交換

3	平成25年6月15日 16:30～19:30	3時間	聖徳大学10号館5階教室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 講座の途中経過状況確認 2. 教室活動の状況確認 3. 今後について 4. その他	1. 講座の途中経過状況確認 ①出席状況の確認 ②授業の様子(受講者の参加率が高く、熱心な様子。グループワークでの、他地域との連携など) 2. 教室活動の状況確認 ①5月16日スタート5回終了。 Aクラス14名、Bクラス13名。振り返しシートの活用など) 3. 今後の予定 ①講座のカリキュラム、講師などの確認 ②教室運営のカリキュラム、講師、報告書の確認など 4. その他
4	平成25年7月20日 16:30～19:30	3時間	聖徳大学10号館5階教室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 講座の経過状況確認、出席状況確認 2. 最終日に向けて、アンケート回収状況確認 3. 教室運営の報告 4. その他	1. 講座の経過状況確認、出席状況確認 ①毎回31～37名と参加率は良く、熱心である。 2. 最終日に向けて、アンケート回収状況確認 ②地域日本語教育の今後ということで総括をする。 ③修了書の発行を確認。 ④アンケートは、ほぼ受講当日に回収できている。 3. 教室運営の報告 ①1回完結型授業の利点。 ②独自教材作成について ③振り返しシートの活用について 4. その他
5	平成25年8月5日 15:00～18:00	3時間	聖徳大学北村研究室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 講座アンケートのまとめ、整理 2. 教室運営1学期のまとめ、総括 3. 文化庁「日本語教育大会」ポスターセッションについて 4. その他	1. 講座アンケートのまとめ、整理 ①項目ごとにまとめる。 ②おかしな表現や同じ内容など調整する。 ③文章は箇条書きにし、読みやすくする。 2. 教室運営1学期のまとめ、総括 ①カリキュラムと教え方の振り返り。 ②学習者の様子と出席率。 3. 文化庁「日本語教育大会」ポスターセッションについて ①準備や当日の予定など 4. その他

6	平成25年9月24日 12:30～15:30	3時間	聖徳大学10号館5階教室	林 史典 北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 教室運営の取り組みと今後の取り組み 2. 教材作成について 3. 文化庁「日本語教育大会」ポスターセッション報告 4. 文化庁より実地調査について 5. その他	1. 教室運営の取り組みと今後の取り組み ①2学期のカリキュラムの確認。 ②10名の参加者があった。 ③テキスト、振り返りシートの見直し。 ④今後の取り組みについて。 2. 教材作成について ①取組の名称:Can-do型授業を導き、その効果を確認する教材の作成 ②取組の目標、内容の確認。 ③カリキュラム案などの活用について 3. 文化庁「日本語教育大会」ポスターセッション報告 ①平成24年度採択プログラムについて紹介をした。 4. 文化庁より実地調査について ①教室見学の後、意見交換 5. その他 ①質問や意見交換
7	平成25年10月10日 15:30～18:30	3時間	国際友好ルーム(松戸ビル4F)	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 教室運営の指導法、効果について 2. 教材作成の状況確認 3. その他	1. 教室運営の指導法、効果について ①カリキュラムの確認。 ②場面で使える会話として機能しているかの振り返り。 ③学習者へ資料として本時に行う内容の配布を試みた。 2. 教材作成の状況確認 ①これまでの文化庁委託事業教材班活動の振り返り ②今後の教材班の取り組みについて 3. その他 質問や意見交換
8	平成25年11月27日 15:00～18:00	3時間	聖徳大学北村研究室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コーディネーター)	1. 教室運営の報告書確認 2. 教材作成案について 3. その他	1. 教室運営の報告書確認 ①カリキュラムの確認。 ②教室活動の報告 ③テキスト、振り返りシート作成の経緯、題材の検討。 2・教材作成案について ①使用したイラストや写真、文字カードなどの提示の仕方の工夫。 3. その他 意見交換

9	平成25年12月17日 12:30～15:30	3時間	聖徳大学8号館 会議室8504	林 史典 北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コー ディネーター)	1. 教室運営の報告書まとめ、整理の件 2. 教材作成の状況 3. その他	1. 教室運営の報告書まとめ、整理の件 ①学習者の反応。 ②1学期と2学期について ③使用した教材、絵カード、文字カードなどの記載方法など 2. 教材作成の状況 ①教室活動の報告書をもとに教材を作成する。 ②見やすい、わかりやすいような教材にしていく。 3. その他
10	平成25年12月24日 14:30～17:30	3時間	聖徳大学北村 研究室	北村 弘明 齋藤 克人 真鍋 昌子 西澤 清江 油野 英子 多田 升美 坂上 久仁子 遠藤 尚子 藤沢 明美(コー ディネーター)	1. 事業全体について 2. 全体総括 3. その他	1. 事業全体について ①それぞれの感想。 ②成果はどうであったか。 ③講座、教室運営、教材作成についての振り返りと成果。 2. 全体総括 ①反省点はあるが、当初の目標は達成できた。

5. 日本語教室の実施

- (1) 講座名称 生活行動を実現するための日本語教室 ～Can-do型授業活動の具体的展開方法を見出す～
- (2) 目的・目標 ① 構文の形式的な学習に偏重せず、在住外国人の生活行動を支える会話表現を指導する。② 単に会話文の意味表現を学習するのではなく、その表現で何が出来るようになったか、その成果を確認させる。
- (3) 対象者 原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)のクラスを中心とする。他にレベルの異なるクラス(来日6ヶ月～1年)も複数設定し、同時に開講する。
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (全 30 回)
- (5) 使用した教材・リソース 『できる日本語 初級』、自作プリント ほか (各教師の準備する教材については、可能な限り、教材作成事業と連動させる)
- (6) 受講者の総数 37 人 (A1クラス+A2クラス+Bクラス)
- (出身・国籍別内訳) ガーナ(1人)、カンボジア(1人)、サモア(2人)、スペイン(1人)、タイ(4人)、台湾(2人)、中国(20人)、フィリピン(1人)、ベトナム(3人)、ペルー(1人)、マレーシア(1人)

- (7) 日本語教室の具体的内容 (※以下の表中で、回数1～10はA1クラス、11～20はA2クラス、21～30はBクラス)

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年5月16日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	14人	ガーナ(1人)、 サモア(1人)、 タイ(1人)、 中国(9人)、 フィリピン(1人)、 ベトナム(1人)	自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、あいさつや簡単な自己紹介の方法を教え、実践する。 どのような場面で、どんな内容が必要になるかについても学ぶ。	野田隆市	大久保文子
2	平成25年5月23日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	10人	サモア(1人)、 タイ(1人)、 中国(7人)、 フィリピン(1人)、	健康・安全	病院で必要となる表現を教える。症状が言えるなど発信の表現と同時に、聞いてわかる表現も教える。医者との簡単なやり取り、受付でのやり取りなどを教え、実践する。	野田隆市	大久保文子
3	平成25年5月30日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	11人	サモア(1人)、 タイ(1人)、 中国(7人)、 フィリピン(1人)、 ベトナム(1人)	交通機関を利用する	駅で必要となる表現を教える。希望する行き先の電車は何番線のどのホームか、行きたい駅に停まるかなど駅員との会話、通行人に聞く会話などをとり入れ、教えた後実践する。	野田隆市	大久保文子
4	平成25年6月6日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	13人	サモア(1人)、 タイ(1人)、 中国(9人)、 フィリピン(1人)、 ベトナム(1人)	消費活動	スーパー、衣料品店などで希望の物を手に入れるための表現を教える。その次にレリアなどを使い実践する。	野田隆市	大久保文子

5	平成25年6月13日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	11人	タイ(1人)、中国(8人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	誘う・断る	人を誘う時の言い方と、受ける言い方、また不快にさせないように断るときの言い方を教える。いろいろな場面を提示させ誘う実践をする。	野田隆市	大久保文子
6	平成25年6月20日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	11人	ガーナ(1人)、タイ(1人)、中国(8人)、ベトナム(1人)	消費活動(飲食店)	ファミリーレストランなどで必要となる表現が使えるように指導する。入店時やオーダー時に言われる言葉が聞いてわかるように、またその返事の仕方や食べたいものを注文できるように教える。その後、入店時からオーダーまで実践する。	野田隆市	大久保文子
7	平成25年6月27日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	8人	サモア(1人)、中国(5人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	交番	落とし物をしたことがあるか、交番を利用したことはあるかなど話し合う。落とし物をして交番へ届けるとき、落とし物が戻るためにできるだけ確に言えるように教える。その後交番での場面を想定し、実践する。	野田隆市	大久保文子
8	平成25年7月4日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	9人	タイ(1人)、中国(6人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	消費活動(返品、交換)	購入したい商品が見つからなかったことはあるか、購入した商品が気に入らなかった場合どうしているかなど話し合う。スーパー、衣料品店などで品物の確認、返品、交換などの表現を教える。その次にレアリアなどを使い実践する。	野田隆市	大久保文子
9	平成25年7月11日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	10人	ガーナ(1人)、タイ(1人)、中国(6人)、フィリピン(1人)、ベトナム(1人)	災害に備える	災害にはどんなものがあるか話し合う。災害時において避難場所の確認や情報を得るために必要な表現、身を守ることを教え、実践する。	野田隆市	大久保文子
10	平成25年7月18日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	5人	タイ(1人)、中国(4人)	健康・安全	薬局で薬を買うために必要な表現と、薬の飲み方や指示など聞いてわかる表現を教える。薬局場面を想定して実践する。	野田隆市	大久保文子
11	平成25年9月19日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	7人	台湾(1人)、タイ(1人)、中国(3人)、スペイン(1人)、ベトナム(1人)	待ち合わせ	待ち合わせ時間に遅れる場合の言い方と待ち合わせ場所がわからない時の聞き方を教える。次に会話の実践をする。	油川美和	小宮山まり子

12	平成25年9月26日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	7人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(2人)、サモア(1人)、ベトナム(1人)、スペイン(1人)	事件・事故	事件・事故に遭遇したとき、助けを呼ぶとき、通報するときの表現を教える。また事故の状況や班員の特徴などを説明する簡単な表現を教えたあと、通報の実践をする。	油川美和	小宮山まり子
13	平成25年10月3日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	8人	サモア(1人)、タイ(1人)、中国(4人)、台湾(1人)、ベトナム(1人)	電話で対応する	家庭の固定電話に掛ける場合、予約する(歯医者、レストランなど)場合、問い合わせる場合の言い方を教える。講師相手に実践する。	油川美和	小宮山まり子
14	平成25年10月10日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	7人	タイ(1人)、中国(4人)、サモア(1人)、ベトナム(1人)	アルバイトの面接	アルバイトの面接を受けるのに必要な言い方を教える。面接時にされる質問を理解する。次にそれらを使い実践をする	油川美和	小宮山まり子
15	平成25年10月17日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	6人	サモア(1人)、スペイン(1人)、タイ(1人)、中国(2人)、台湾(1人)	料理	好きな料理や得意料理について味、材料、作り方の順序などの言い方を教える。それらについての質問の仕方もある。その後、聞き手にわかるように説明させる。	油川美和	小宮山まり子
16	平成25年10月24日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	7人	サモア(1人)、タイ(1人)、中国(3人)、ベトナム(1人)、台湾(1人)	トラブル対応	乗り物に忘れ物をしたとき、切符をなくしたとき、電車が止まったときなどに対応するための言い方を教える。言い回しの練習後、実践する。	油川美和	小宮山まり子
17	平成25年10月31日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	5人	スペイン(1人)、タイ(1人)、中国(3人)	タクシーに乗る	目的地までの行き方の指示の方法を教える。また、乗車中に起こりうる出来事はどんなものか話し合い、それに対する対応表現を教える。その後実践する。	油川美和	小宮山まり子
18	平成25年11月7日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	5人	スペイン(1人)、タイ(1人)、中国(3人)	郵便局を利用する	一般郵便物の発送に必要な表現、会話を教える。また電話で再配達依頼の言い方を教える。その後実践する。	油川美和	小宮山まり子

19	平成25年11月14日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	6人	サモア(1人)、スペイン(1人)、台湾(1人)、中国(3人)	美容室・クリーニング店を利用する	美容室、クリーニング店で自分の要望を伝えるための言い方を教える。学習者同士で実践する。	油川美和	小宮山まり子
20	平成25年11月21日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	7人	サモア(1人)、タイ(1人)、中国(3人)、台湾(1人)、スペイン(1人)	旅行の計画を立てる	旅行の提案、希望、調整の言い方を教える。また旅行代理店でのやり取りを教える。その後旅行パンフレットを用意し、どの旅行にするか意見を出し合い決定し、旅行代理店に申しこむ実践する。	油川美和	小宮山まり子
21	平成25年5月16日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	10人	カンボジア(1人)、タイ(2人)、台湾(1人)、中国(5人)、ペルー(1人)、	自己紹介	初対面で、興味を持ってもらうために自分のことを印象付けるための言い方を教え、実践する。	多田升美	田中裕美
22	平成25年5月23日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	10人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(7人)、マレーシア(1人)	健康・安全	病院で必要となる表現を教える。診察室で症状が言えるなど発信の表現と同時に、指示など聞いて理解できる表現も教える。また受付でのやり取りなどを教える。これらを総合的に実践する。	多田升美	田中裕美
23	平成25年5月30日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	8人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(5人)、マレーシア(1人)	交通機関を利用する	行ったことのない場所へ交通機関を利用して移動する際に必要となる日本語を学ぶ。乗り場(ホーム)やその電車の行き先、目的地に停車するかどうかの確認をする表現などを学ぶ。	多田升美	田中裕美
24	平成25年6月6日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	11人	台湾(1人)、中国(7人)、タイ(1人)、人、カンボジア(1人)、マレーシア(1人)	消費活動(買い物)	商品名はわかるがそのものがわからないときに説明を受けるための尋ね方、欲しい商品の位置を尋ねる言い方、欲しい商品がない場合に対処する言い方を教える。また試着の申し出から希望を伝えるまでの言い方を教える。その後、いろいろな状況を提示し、実践する。	多田升美	田中裕美
25	平成25年6月13日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	9人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(6人)、マレーシア(1人)	誘う・断る	友達、上司など立場の違う相手に対して誘う、断る言い方を教える。相手を限定して実践する。	多田升美	田中裕美

26	平成25年6月20日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	5人	台湾(1人)、中国(4人)	消費活動(飲食店)	ファミリーレストランなどで使われる表現を教える。入店時から注文、また予期せぬトラブルにも対処できる表現を教える。その後、実践する。	多田升美	田中裕美
27	平成25年6月27日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	10人	カンボジア(1人)、タイ(1人)、台湾(1人)、中国(6人)、マレーシア(1人)	交番	なくしものをしたときの対処表現。なくしものをした人に対してのアドバイスの言い方、交番へ行ってなくしたものの特徴を伝える言い方を教える。併せて文法要素も理解させる。その後、実践する。	多田升美	田中裕美
28	平成25年7月4日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	8人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(5人)、マレーシア(1人)	消費活動(買い物)	購入した商品のサイズがあわなかった場合どうしているか、また返品や交換などしたことがあるかなど話し合う。スーパー、衣料品店などで品物の確認、返品、交換などの表現を教える。また取り寄せなどの申し出の言い方を教える。その後、実践する。	多田升美	田中裕美
29	平成25年7月11日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	5人	タイ(1人)、台湾(1人)、中国(3人)、	災害に備える	災害にはどんなものがあるか話し合う。身を守ることは、情報を得るための表現、避難所でのいろいろな表現を教える。実際避難した場合を想定して実践する。	多田升美	田中裕美
30	平成25年7月18日 13:30～15:30	2時間	松戸ビル4F 国際友好ルーム	8人	カンボジア(1人)、台湾(1人)、中国(5人)、マレーシア(1人)	健康・安全	薬局を利用する。適切な薬を買うための言い方を教える。また、飲み方など指示されたことばが理解できるように教える。その後、学習者同士で実践する。	多田升美	田中裕美

(8) 受講者の募集方法

聖徳大学広報(HP等)／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内書郵送

(募集用のチラシ)



聖徳大学 連携
Japanese class



に ほ ん ご き ょ う し つ

日本語教室

生活重要日常会話

Essential conversation of daily life

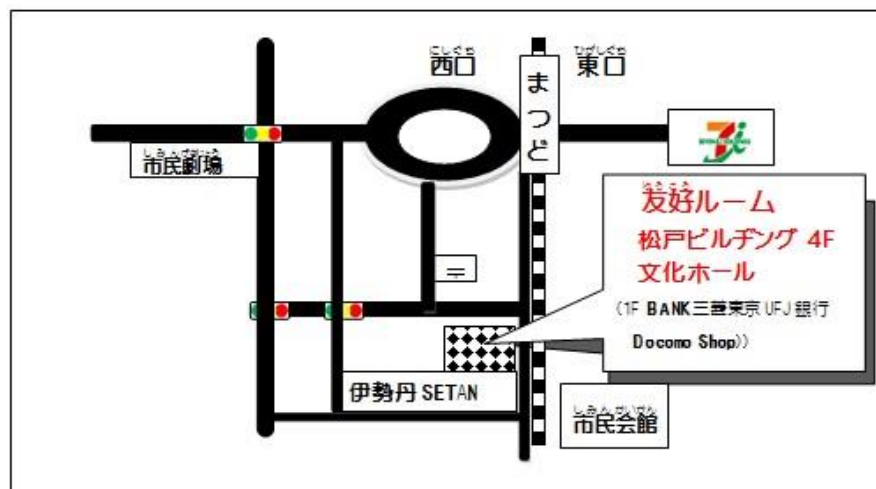


☆ 病院で／アルバイトの面接／電車にのる／レストランで／買い物をする
／誘う・断る／交番／災害に備える／駅で／飲食店……etc.

☆ 5月16日～7月18日(前期) 木曜日 Thursday 13:30-15:30

☆ 9月19日～11月21日(後期) 木曜日 Thursday 13:30-15:30

☆ 友好 ルーム (文化ホール)



《 松戸市 にほんご教室 》

お問い合わせ先: manabenihongo@mail.goo.ne.jp (まなべ)

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

日本語教室の運営 授業内容報告書

作成日時 2013年 7月 19日 (金)

授業実施日時		2013年 7月 18日(木) 13:30～15:30			松戸教室		
担当教師名		多田 升美		クラス名	B クラス		
出席者／在籍者		8名／13名		補助者名	田中 裕美		
在籍者名(国籍) 出席○ 欠席×	徐 祥峰 (台湾)	○	Ris Wan (中国)	○	ミリー・チー (マレーシア)	○	
	翁 育清 (中国)	×	熊谷アモンラット (タイ)	×	王 珊珊 (中国)	○	
	黄 旭媚 (中国)	○	ブッサリン・ボームパンチャイ (タイ)	×	楊 曉蓉 (中国)	×	
	張 娜 (中国)	○	安次嶺 ミリアン (ペルー)	×			
	彭 興蓓 (中国)	○	ベッチ・ソコン (カンボジア)	○			
本時の目標		薬局を利用する 適切な薬を買うことが出来る					
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる 文型および 提示方法	① 「咳が止まらないんですけど、何かいい薬はありませんか。」 ② 「鎮痛剤がほしいんですけど、どれがいいですか。」 ③ 「この飲み方を教えてください。」					
	指導項目と 活動内容	教師の活動		学習者の活動			
	1. 場面を提示する ドラッグストアの写真①をホワイトボードに貼る 今日のテーマを知らせる。 2. 質問していろいろ発話させ、今日の場面を認識させる。 以下の質問を提示しながら、ブローケンでも対話を試みる。 ここはどこですか？ 知っていますか。 見たことがありますか。 行ったことがありますか。 近くにありますが。 何がありますか。 何を売っていますか。 何を買いましたか。 3. 発話の中なら疑問に感じた語彙を教える。 発音し提示→板書で提示(漢字とひらがな) 4. 薬局のカウンターでお客と薬剤師の対面販売の写真②と風邪をひいて具合が悪い絵を提示 カウンターの絵② これは誰ですか？ 初出語彙：薬剤師 症状の言い方 風邪をひいた絵③ この人はどうしましたか？ いろいろ発話させて、表現方法を直す 擬態語の導入 → 初出単語：板書		1 絵を見て知っていることを話す 学習者同士でそれぞれ声に出して言う。 2. 教師に質問されたことについて、いろいろ自分の言える範囲の言葉で言ってみる。 ○○です。 知っています。 行ったことがあります。 よく行きます。 いつも行きます。 薬があります。 トイレトペーパー、 ティッシュペーパー、ハブラシ、シャンプー・リンス 食べ物、飲み物 病院の薬を買います。 3. 自分にない語彙を尋ねながら話をすすめる。 日用品、処方箋、鎮痛剤、胃腸薬、化粧品、食品、飲み物、湿布薬、かゆみ止め、 4. 絵を見て次の段階を認識する 絵②を見て考え発話する 「店員？」「だれ？」などなど 教師の提示により「薬剤師」と発音記憶する 症状の言い方を学ぶ 絵③を見て考え発話する 「熱があります」 「頭が痛いです」 「咳が出ます」 「寒いです」 「鼻水が出ます」				
		寒いぞ→寒気がします／ぞくぞくします 目が→目が回ります／頭がクラクラします 頭が痛い→頭がガンガンします 絵②を見せてそれに見合った表現ができるか順番に言わせる。 その他の症状も言わせる 表現の訂正 ねん挫した 下痢をしています 筋肉痛 5. 薬局へ行って薬を買おう		個々に擬態語の発話練習をする 人の発話を聞き、リピート練習する 絵②を見て提示された症状を言う その他の症状を言う ねん挫です 下痢です 筋肉がいたい			

	<p>5. スキットを見せる 補助者を使ってスキットをする</p> <p>A「あのう、鼻水が出るんですが、どの薬がいいですか。」 B「はい、それではこの薬はいかがですか。」 A「じゃ、それにします。」 B「ありがとうございます。おだいじに」</p> <p>A「あのう、鎮痛剤がほしいんですが、どれがいいですか？」 B「そうですね、これなんかいいのですが、胃にやさしいですよ」 A：「じゃ、それにします。」 B「ありがとうございます。おだいじに」</p> <p>スキットの練習させる</p> <p>6. 薬の用法容量のきき方と見方 「すみません、この飲み方を教えてください」 「1回3錠、1日3回、食後に飲んでください」 この順番で教えた</p> <p>進出語彙 1回3錠、1日3回、毎食後、お休み前、食前、食間、15歳未満</p> <p>7. 学習者同士で薬剤師、お客になってロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕が痛い、何かいい薬はないか聞いて買う。 ・おなかの調子が悪い、早く治したい。どんな薬がいいか聞いて買う。 ・子供の風邪薬を買いたい。安全が、どれだけ飲めばいいかきちんと聞いて買う。 ・鎮痛剤が欲しいがどれがいいかわからない。胃にやさしいのはあるか、聞いて買う。 <p>客：立たせて、いろいろな症状や質問なども入れさせる。自分のことを言う（例：子供の薬も） 薬剤師：立たせて、お客の希望を聞いて薬を出す。</p>	<p>5. 薬局で薬を買う スキットを見て先ほど言えなかったフレーズを知る。 スキットの練習をする 教師と学習者、学習者同士</p> <p>6薬の用法容量を聞く</p> <p>初出語彙を知る</p> <p>7. 薬剤師、お客の役割をして薬を買う、売る。 立って順番に役割を交代して行う。</p>
用いた教材	<p>ドラッグストアの写真、薬局カウンターでも写真、イラスト、薬シリアル（錠剤、カプセル、貼り薬、目薬）、薬写真（めりくすり、ドリンク剤） お薬手帳</p>	
振り返りシートの実施方法	<p>1. 新しく覚えた言葉 写真・イラストが提示してある ・教師が番号と意味を言って写真・イラストの下にその番号を入れる。 （例：1. 飲みません、かゆいときやけがをしたときに使います。） ・その後、そのものの名前を記入する</p> <p>2. 言ってみよう ・イラスト・写真を見てA、B、Aの会話をする。教師と補助者がB役で会話する。 ・会話が出来たら書いてみる。</p> <p>3. いっしょに飲みますか ・（ ）の中に記号を入れる</p>	
【総 評】	<p>毎回、「今日はどの場面ですか」と、場面設定の写真やイラストを出すのを楽しみに待っている。それにいろいろ自分なりに言葉を考えて発話するのが楽しいようだ。</p> <p>次の絵を見せて、会話場面を絞っていくと、またこれもいろいろ出てどこまでも声が絶えないが、無秩序なわけではなく、みなうまくターンテイクングを行っている。</p> <p>いつも、初めのそれぞれの言葉とほかの人の言葉や提示した言葉を吸収して1時間半過ぎるころの言葉を比べると、かなりうまく自分の言葉にしているのがわかる。こちらもやっていて楽しい。</p> <p>最後のロールプレイは、教師は全く手伝わないので、汗をかきながらどうにか乗り切っていくところが見どころだ。また、両者自分ことを言うので授業内に出なかったことも多々あり、難題だらけだが、ボテボテながらもどうにかうまく乗りきる。</p> <p>質問の仕方や薬の用法などのきき方や教え方のお作法がすんなり言えたところがかえって際立って見えて自信がついたようだ。</p>	
添付する教材	<p><input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無 (振り返りシート、絵パネル)</p>	
その他の問題点（備考）	<p>子供の真休みが近くなり、休まなければならない人がいて残念。 各自ノートを取っているが、何か手がかりになるシートがあったほうがいいのか。また次回の子告は必要だと感じる。</p>	

日本語教室の運営 授業内容報告書

作成日時 2013 年 9 月 19 日(木)

授業実施日時		2013 年 9 月 19 日(木) 13:30～15:30				松戸教室	
担当教師名		油川 美和		クラス名		A2 クラス	
出席者／在籍者		7 名／10 名		補助者名		小宮山 まり子	
在籍者名(国籍) 出席○ 欠席×		ローズラサリン (タイ)	○	陳 品善 (台湾)	○		
		レ フォ ダヤ (ベトナム)	×	孫 国忠 (中国)	○		
		景 輝 (中国)	○	サスル ウルパノ (タイ)	×		
		グエンティエン (ベトナム)	○	エドワルド ヒメス (メキシコ)	○		
		劉 恩璽 (中国)	×	程 麗 (中国)	○		
本時の目標		「待ち合わせ」に関する表現—集合時間に遅れる急病で行けなくなった、集合場所を尋ねるなど電話で伝えたり、聞くことができる。					
授業内容 (時系列に沿って記入)	学習させる 文型および 提示方法	① 「～て(で)、集合時間に行けません。」(発信) ② 「～て(で)、行けなくなりました。」(発信) ③ 「～が見えます。」(発信) ④ 「行き方がわかりません。教えてください。」(発信)					
	指導項目と 活動内容	教師の活動		学習者の活動			
		1. まず、学習者に松戸近郊の観光案内やマップ(1 レアリア)を見せて、「どこかに行きましょう。」講師が提案する。行き先・日にち・集合時間・集合場所を学習者と一緒に相談する。 2. 次に電車が遅れている場面(2 写真)を提示して、この場面でするべきことを、学習者にきく。 3. 講師と補助者とスキットを演じ会話例を開かせる。(3 絵パネル 4 レアリア) 文型①「～て(で)、集合時間に行けません。」 B: もしもし。 A: あ、B さん。すみません。電車が遅れて(し)て、集合時間に行けません。 B: そうですか。あとどのくらいで着きそうですか。 A: 10 分くらいです。 B: わかりました。気をつけて来てください。 4. スキット場面の初出単語等を確認後、発音練習。(5 初出単語 待ち合わせ・集合時間 集合場所・遅れます・着きます) 5. 練習① 講師の指示にしたがって、口頭ならしのスキルアップを繰り返し行う。 6. 練習② 講師の誘導で会話練習をする。 7. 練習③ 個人練習(各人に自由に練習させる。) ※「もしもし」の「し」の発音を練習させた。 8. 練習④ 講師と学習者でスキットを演じる。 9. 応用練習 集合時間に遅れる他の理由を学習者に考えさせ、それを使って学習者同士スキットを演じさせる。 10. スキットの場面(6 絵パネル)を提示する。この場面でするべきこと、どう言ったらよいか、学習者に考えさせ、意見をきく。 11. 講師と補助者でスキットを演じる。		1. 講師と一緒に行き先・日にち・集合時間・集合場所を決める。 2. 提示された場面でするべきことを意見をだす。 3. 教師と補助者のスキットを開く。 スキットで使用された本時の各文型とその運用法に気づく。 4. 初出単語を理解する。その後、発音練習。 5. 練習① 講師の指示にしたがって、口頭ならしのスキルアップを繰り返し行う。 6. 練習② 講師の誘導で会話練習をする。 7. 練習③ 各人自由に練習する。 8. 練習④ 講師とスキットを演じる。 9. 応用練習 集合時間に遅れる他の理由を考える(例 寝坊した。)その理由を使ってスキットを演じる。 10. 提示された場面でするべきこと、どう言うか考え、意見を言う。			
		文型②「～て(で)、行けなくなりました。」 B: もしもし。 A: あ、B さん。すみません。風邪をひいて行けなくなりました。 B: わかりました。お大事に。 12. 練習①②③④ 13. 応用練習 学習者に当日参加できなくなった他の理由を考えさせ、学習者同士スキットを演じさせる。病気が原因の場合それにふさわしい話を考えさせる。		11. 教師と補助者のスキットを開く。 スキットで使用された本時の各文型とその運用法に気づく。 12. 練習①②③④ 13. 応用練習 参加できなくなった理由を考え、学習者同士でスキットを演じる。			

	<p>話し方をさせる。</p> <p>14. スキットの場面（7 絵パネル）を提示する。この場面でするか、どう言ったらよいか、学習者に考えさせ、意見をきく。</p> <p>15. 講師と補助者でスキットを演じる。 文型③「～が見えます。」 B: もしもし。A さん、今、どこにいますか。 A: ああ、よくわかりません。 B: そこから何が見えますか。 A: ○○銀行のビルが見えます。</p> <p>16. スキット場面の初出単語等を確認後、発音練習。（8 初出単語 銀行）</p> <p>17. 練習①②③④ 「ああ」は困ったという感情をだすよう指導した。</p> <p>18. 応用練習 「～が見えます。」の部分で学習者同士、自由に言い換えてスキットを演じさせる。（9 初出単語 交差点 信号 橋）</p> <p>19. スキットの場面を提示する。10 地図をホワイトボードに貼って講師はどこが集合場所かわからない演技をする。</p> <p>20. 講師と補助者は地図上に 11 人形 A と B を置いてスキットを演じる。</p> <p>文型④「行き方がわかりません。教えてください。」 A: B さん、（集合場所への）行き方がわかりません。教えてください。 B: はい。そこから何が見えますか。 A: ええと、大きい橋が見えます。 B: じゃ、その橋を渡って、左に曲がってください。</p> <p>21. スキット場面の初出単語等を確認後、発音練習。（12 初出単語 橋を渡る 曲がる）</p> <p>22. 練習①②③④ 「ええと」の言いかたは、何かを探しているニュアンスが伝わるように指導する。</p> <p>23. 応用練習 A は B の指示で、地図上の人形 A を動かし、集合場所まで行く。文型③④を使う。</p>	<p>14. 提示された場面でするか、どう言おうか考え、意見を言う。</p> <p>15. 講師と補助者のスキットを聞く。 スキットで使用された本時の各文型とその運用法に気づく。</p> <p>16. 初出単語を理解する。その後、発音練習。</p> <p>17. 練習①②③④ 「ああ」を困ったという気持ちが伝わるように言う。</p> <p>18. 応用練習 「～が見えます。」の部分で学習者同士、自由に言い換えてスキットを演じる。A は困った様子で話す。</p> <p>19. 学習者はこの場面でするか、どう言おうか考えて意見を言う。</p> <p>20. 講師と補助者のスキットを見る。 スキットで使用された本時の各文型とその運用法に気づく。</p> <p>21. 初出単語を理解する。その後、発音練習。</p> <p>22. 練習①②③④ 「ええと」の言いかたは、何かを探しているニュアンスが伝わるようにする。</p> <p>23. 応用練習 ・A は B の指示で、地図上の人形 A を動かし、集合場所まで行く。文型③④を使う。</p>
用いた教材	<p>（絵パネル）場面風景・初出単語・地図 （文字カード）文型カード・初出単語カード （レリア）携帯電話 （ロールプレイ演出用）地図上に置く人形とバス</p>	
振り返りシートの実施方法	<p>用意したシートを利用。①は教師が初出単語を読み上げ、イラストや言葉の中から選ばせる。②と③は学習者が A、教師が B でスキットを演じる。今回は学習者が 5 段階で自己評価。</p>	
【総 評】	<p>講師が授業を進め、補助者が学習者の発音、アクセントを注意深く聞き、チェック。適宜、矯正、練習させることができた。また、スキットの会話での感情のこめかた、表情なども指導することができた。</p>	
添付する教材	<p><input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 （場面風景イラスト・初出単語イラスト・文字パネル・レリア）</p>	
その他の問題点（備考）	<p>総評に書いた練習に時間を取りすぎ、応用練習をする時間が少なかった。</p>	



(10) 目標の達成状況・成果

毎回、授業の後は指導者がミーティングを実施し、本時の反省と次回の授業計画を確認した。そこで話し合われた内容は、「授業記録」として、随時、運営委員会に上げたが、目標達成と成果については、以下のような点があげられる。

【目標達成】

- ・学習者に対して実施した口頭のアンケート調査からも、まずは「生活に役立つ会話内容」であった点が歓迎されたようである。

- ・従来の説明型・知識暗記型の学習に慣れていた学習者には、最初、戸惑いもあったようだが、日本語を通じて自分の希望する行動が「できる」という実感が、達成感として徐々に自覚できたとの声が多かった。

- ・指導者の間でも、「対話型」で授業を進めることのむずかしさを感じる場面も多かったが、次第に単なる質問者から、話題を学習者と共有しながら授業を進めていけるコツをつかんだ者も多かった。

- ・学習者には、会話能力には何が一番必要か、という学習目標が次第に伝わっていったと思われる。それは、学習項目を単に暗記させて「覚え込ませる」ことに目標があるのではなく、指導者が用意したテーマを学習者たちが次第に応用・展開させていくプロセスに見られる。

【成果】

- ・「実践的学習」という部分が学習者のニーズに合致したようで、他のボランティア教室でも、コミュニケーションということを目標にした授業活動が生まれた。

- ・学習者からこの授業を受けて、生活の中での行動に広がりや円滑性を感じるようになったとの意見が聞かれるようになった。

- ・指導者も目の前の学習者に一個人の人間としての目を向けて指導するようになり(相手の反応を正しく見るようになり)、従来の自分の教え方ばかりを気にする姿勢からの変化がみられるようになった。

(11) 改善点について

・「振り返りシート」は重要であることは認識しつつも、回を重ねるごとにその「形式」がワンパターン化していく傾向が出て来たのは、今後の課題である。これは、何よりも本時の授業目標に対しての自覚がまだ十分確認できていないことの裏返しでもある。

・Can-do型授業では、指導者の一方的な知識の説明が中心となった授業は否定され、対話型の授業が行われねばならないが、まだ対話という意味が十分理解できていない指導者や、本来コミュニケーションを得意としていない指導者もあり、語学教育の難しさが人間関係の構築という点にもあることを感じさせる部分も出て来た。今後は、指導者にコミュニケーションという問題を考えてもらう必要もある。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称

Can-do型授業への推進に基づく教室運営と指導者へのアピール方法を検討する研修講座

(2) 目的・目標

- ① 構文指導用の教科書に縛られることなく、在住外国人に日本語を教える目的・意義を自覚しながら、生活サバイバル的表現を重視した日本語会話の指導法を研修する。
- ② 本講座などで研修した成果をどのようにすれば、組織全体に深い理解を得ながら波及できるか、その組織運営にも及ぶ点について現実的観点から検討する。

(3) 対象者

地域でのボランティア日本語教育に2年以上従事している者。また、これまで日本語指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支えるCan-do重視の日本語指導法に関心のある者。

(4) 開催時間数(回数) 30 時間 (全 10 回)

(5) 使用した教材・リソース

『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』

『外国語教育Ⅱ—外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ参照枠—』

『JF日本語教育スタンダード』(国際交流基金) ほか

(6) 受講者の総数 40 人

(出身・国籍別内訳 日本 40人)

(7) 養成・研修の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業概要	講師又は指導者名	補助者名
1	平成25年5月25日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号館5F教室	36	日本 (36)	(オリエンテーション) 今、直面している問題点について	1. 教育における「計画」と「評価」 2. Can-do-statementsとポートフォリオについて 3. 振り返りシート	北村弘明	油川美和
2	平成25年6月1日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号館5F教室	31	日本 (31)	Can-do型授業の発想と授業展開の実際(初級編)	Can-doの理解について、受講生間での共通認識を作り、その後、学習者のレベル、学習目的、学習環境、学習者の属性等を考えあわせた授業プラン作成 《グループワーク》	西川寛之	関美智子
3	平成25年6月8日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号館5F教室	35	日本 (35)	地域日本語教室が抱える組織運営の問題点と解決法(1)	1. 自分自身を振り返るためのセルフチェック 2. 発信のための情報共有を目的としたアンケート 3. 知識を共有するための資料 《グループワーク》	吉田聖子	関美智子
4	平成25年6月15日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号館5F教室	34	日本 (34)	Can-do型授業の発想と授業展開の実際(初中級編)	1. 評価と学習目標の違いを理解して、評価を学習に活かす 2. 教材をなぞる授業と教材を活用する授業の違い(学習項目と教室活動) 3. Can-doを活用した教室活動をする 《グループワーク》	西川寛之	関美智子

5	平成25年6月22日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	34	日本 (34)	評価結果から 読み取る指 標 ～評価法の 種類と分析方 法	1. 学習者が自身の日本語学習状 況を把握し、学習を継続するための 評価 2. 支援者等が学習者をより適切に 支援するための評価 3. 学習者の社会参加を支えるため の評価 《グループワーク》	北村弘明	油川美和
6	平成25年6月29日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	35	日本 (35)	地域日本語 教室が抱える 組織運営の 問題点と解決 法(2)	1. 集合体のパターン 2. 組織と組織運営 活動が社会に貢献することに意義 がある。個人の集まり＝集団 と組織 の違い 3. 地域日本語教室における組織運 営 《グループワーク》	吉田聖子	油川美和
7	平成25年7月6日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	36	日本 (36)	Can-do型授 業を目指す理 念と実際 ～これまでの 取組経緯 をめぐって	1. 平素の振り返り 2. Can-do型授業で大切なこと 3. Can-do重視の教科書『できる日 本語』の実践より 参考: 横浜で暮らす人のための初期 日本語教室・基本方針	嶋田和子	関美智子
8	平成25年7月13日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	37	日本 (37)	『できる日本 語』はどう受 け入れられた か? ～その 効用と課題	1. 『できる日本語』のコンセプト 2. 『できる日本語』の特徴 3. 楽しく漢字を学ぶには ～『漢字たまご 初中級』を使って～ 《グループワーク》	嶋田和子	関美智子
9	平成25年7月20日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	35	日本 (35)	評価結果から 読み取る指 標～自然な 発想転換と研 修方法	1. 生活上の行為に関する基準を作 成する 2. 意欲、態度での変化 3. 日本語によるコミュニケーション の状況 4. 複数の評価基準の選択・組合せ	北村弘明	油川美和
10	平成25年7月27日 13:30～16:30	3時間	聖徳大学10号 館5F教室	36	日本 (36)	(総括)地域 日本語教育 の今後～実 践的会話能 力の養成機 関へ	1. Can-do型授業の実施と組織運営 との関連 2. 改善の方向へのヒント(キー・ ワード) 《ディスカッション》 3. Can-do型授業 その指導法 難 行から易行へ	北村弘明	油川美和

(8) 受講者の募集方法

聖徳大学広報／東葛地域の各市国際交流協会、教育委員会、日本語教室などに案内書郵送（HPIによる募集を含む）

（募集用チラシ）

平成25年度 文化庁日本語教育委託事業
聖徳大学言語文化研究所主催

Can-do型授業への推進に基づく教室運営と
指導者へのアピール方法を検討する研修講座

【講座内容】 今年度は Can-do 型授業の方法や観点をどのようにすれば組織全体に無理なく波及させることができるか、という組織運営に関わる点にも多くの時間をかけて、研修していく予定です。講座の半分以上を「実習・参加型」の形態として、単なる“座学”ではなく、具体的な教室活動として教授法や指導手順を実践的に学びます。

【募集人員】 35 名（申し込み多数の場合には、書類選考をおこなうこともあります）。

【応募資格】 地域でのボランティア日本語教育に 2 年以上従事している方。また、これまで日本語指導をしてきた経験を踏まえ、外国人の生活行動を支える Can-do 重視の日本語指導法に関心のある方。

【参加費】 無料（ただし、初回に 配付物印刷実費 3,000 円をお支払い下さい）

【応募方法】 封筒に別紙の申込用紙（必要事項記入）と返信用封筒（80 円切手を添付し、受取人住所氏名を明記のこと）を入れ、下記宛先にお申し込みください。

申込書・スケジュール表はこちらからダウンロードできます

<http://www.seitoku.ac.jp/kenkyuiyo/gengo/index.html>

（宛先）〒271-8555

千葉県松戸市岩瀬 550 聖徳大学知財戦略課 日本語教育研修講座係

（※切）平成 25 年 5 月 10 日（金）当日必着

（お問い合わせ）聖徳大学 TEL 047 (365) 1111（大代）知財戦略課

メールアドレス chizai@seitoku.ac.jp

※5 月 18 日（土）頃までに、受講の可否を、折り返し通知いたします。

【講師】 北村 弘明（聖徳大学言語文化研究所教授）

嶋田 和子（アクラス日本語教育研究所代表理事）

吉田 聖子（日本語教育学会 人材育成プロジェクト・コーディネーター）

西川 寛之（明海大学講師）

※都合により講師の変更がある場合もあります。

聖徳大学言語文化研究所

(9) 特徴的な授業風景(2～3回分)

平成 25 年度 文化庁日本語教育委託事業
Can-do 型授業への推進に基づく教室運営と
指導者へのアピール方法を検討する研修講座

講 座 記 録

平成 25 年 5 月 25 日

受講出席者人数 36/40 人

授業内容 今、直面している問題点について 担当講師名 北村 弘明 先生

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

① テーマの確認 前回講座とのつながり確かめる組織運営論への導入

- ・ 前回講座のテーマ「振り返りシート」の活用が続く Can-do 型授業の方法や観点をどのようにすれば組織全体に波及できるか。組織運営論へのいざない。

② Can-do 型授業実践の確認

- ・ 「計画」と「評価」…評価基準と評価規準
- ・ Can-do-statements とポートフォリオ
- ・ 振り返りシート

③ Can-do 型授業実践のための教室運営と組織(個人の問題から組織の問題へ)

- ・ ボランティア活動の特徴(①無償性②自発性③公共性)とボランティア組織の問題点。

④ 組織運営についての事例(1～4)から見る地域ボランティア団体の特徴

- ・ ボランティアグループのような集団の持つ2つの機能「課題達成機能」「集団維持機能」を組織論から考えていくということが、組織運営を改善させていくステップになる。
- ・ 事例から見えてくること。ボランティア活動には参加の度合いによって「中心」「周辺」「外延」のメンバーから成る階層性生まれる。

⑤ 組織運営論から 今直面している問題点と解決案へ

【受講者の反応】

- ・ 上記④以降では 受講者がそれぞれに頷いたりしていた。 高い関心を持って、聴講していることがよくわかった。

【授業で特に気付いた点】

- ・ 今回の講座の参加者は、前回までと比べ男性の人数が多い。これは今回の講座内容と関係があるのだろうか。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

- ・ 質疑応答は2回目以降、たくさん出てくると思われる。

平成 25 年度 文化庁日本語教育委託事業
Can-do 型授業への推進に基づく教室運営と
指導者へのアピール方法を検討する研修講座
講 座 記 録

平成 25 年 6 月 15 日

受講出席者人数 34 / 40 人

授業内容 Can-do 型授業の発想と授業展開の実践（初中級編） 担当講師名 西川寛之 先生

【授業項目／内容】

① 前回のテーマの確認 → 学習者が何をしたいかはこちらから拾う→Can-do 型授業

日本語教室は生活支援の場、日本語指導は学習者のニーズによりそって。ボランティア同士の協力。
・「単語」と「文法」さらに「音声」 コミュニカティブアプローチからの脱却。文化の違いから生まれる表現の違い。知識だけではなく身につく学習→学習者に合わせて。

② 評価と学習目標

- ・「評価」と「測定」…評価したいものを決める→測定→測定結果から評価（例 メタボ測定）
評価には主観が入るが測定はある基準を用いて数値化を行う、記録する作業。いい評価を得るための学習となると危険。学習者の日本語能力を高める学習目標を設定する。Can-do 型は何ができるかの評価基準。評価の項目を活用して授業を組立てることを目指す。（例 漢検とメラミン）
- ・ 学習項目と教室活動 学習目標に合わせた学習項目。学習項目を見て教材を使いこなす。

（１）何を数えるのか → 教科書任せではない

（２）どこまで教室内で練習するのか → 社会につなげるまで

（３）学習者の母文化 母語との対照

教室活動（a）スキットの練習 学習者側からも設定の提案ができるように。無理なやりとりと現実の違いを埋める教師の工夫。→タスク達成を評価。社会で実践できるところまで学習をつなげるには教師は何をすべきか。

（b）ロールプレイ練習 教師側の工夫で各学習者に合わせた活動を実際の場面につなげる。そのための活動↓

③（グループ作業）学習項目の設定の準備作業

前回の語彙や表現、行動の具体例項目を 3, 4 名のグループで Can-do の木を見ながら分類する。
受容、産出、やりとり、語用能力、社会言語能力、言語構造的な能力を考え項目設定をイメージ。
→各学習者の目標設定から逆算して授業を組み立てる。

④ 学習項目ごとにできるようになったことを確かめることが大切。教室活動に必ず組み込み、定期的に日本語の上達を確認していく。弱点をなくす学習方法で日本語の力をつける。

【受講者の反応】

- ・ 西川先生は軽い質問をして受講者の理解度を見ながら、わかり易い授業を展開していた。Can-do 型授業について初めて知る人も相当数いたようだ。

【授業で特に気付いた点】

今回ご用意いただいた動画の説明は受けられなかった。学習項目の設定準備について、是非続きを伺いたい。

平成 25 年度 文化庁日本語教育委託事業
Can-do 型授業への推進に基づく教室運営と
指導者へのアピール方法を検討する研修講座
講座記録

平成 25 年 6 月 29 日

受講出席者人数 35/40 人

授業内容 地域日本語教室が抱える組織運営の問題点と解決法 (2) 担当講師名 吉田聖子 先生

【授業項目／内容】(時系列に沿って、おおまかな授業内容を記入)

- ①集合のパターン・組織と組織運営について、第 1 回目の「今、直面している問題点について」の組織についての諸事例の中から事例 1 を読んで、地域のボランティア団体におろしてきた場合について、受講生同士で話し合い、各グループの発表があった。理想的な組織としては、理念、目標、共通のルールがあり、仕事を分担し、秩序ある交流が円滑に行われている「水平型」が良い。
- ②地域日本語教室における組織運営として、教室活動のキーワードは「チームワーク」。敬意、傾聴を良くし、思い込みを取り払う。
- ③Can-do 型授業の推進にむけて、受講者は、事例 (A) (B) (C) を読んでそれぞれの事例の問題点、改善点を話し合い、代表者が、それぞれの事例について板書した。板書内容について講師から適切なフィードバックがあった。
- ④受講者其々の教室で Can-do 型授業を取り入れるとしたら、どんな手順で進めるかの投げかけがあった。各受講者は、3、4 人ずつのグループで話し合い、代表者が発表をした。
- ⑤最後に、教室活動に変化を取り入れるには、個人レベルと組織レベルでの必要性について、まず、個人レベルでは、改善、評価、実行、計画に沿って、学び、自身で挑戦し、疑問点をまとめ、客観的な Q and A をしてもらい、もう一度挑戦し、自分自身の言葉で説明ができるようになる。組織レベルでは、改善、評価、実行、計画は個人レベルと同じだが、目的の再確認、Can-do 型授業について検討、学び、ブラッシュアップを心がけ、どのような手順が良いか話し合い、養成講座の内容を検討する。タイミングの重要性を認識すること。

【受講者の反応】

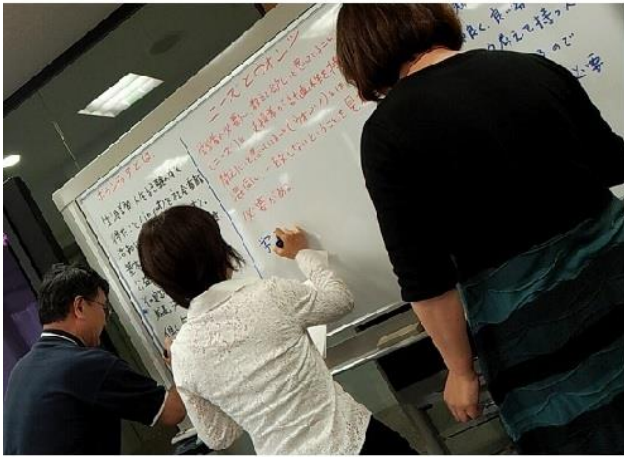
- ・授業のほとんどがグループワークだったが、受講生は身近な問題点を意識し、感じ、また、他の組織との違いに新しい発見があって、真剣に話し合っていた。

【授業で特に気付いた点】

- ・今回の授業も、受講者自身の活動に直接かかわる内容だったので、授業を通して自己分析、団体のありようや関わり方などを客観的に見ることが出来て、振り返りの良い機会となった。

【授業の課題／反省点と思われる事項】

- ・受講生の板書時間はもっと短い時間で良いと思う。あるいは、板書はなくても良いと思う。貴重な時間なので有効活用してほしい。アウトプットは別の方法もある。今回は、板書の内容について講師のフィードバックがあった。



(10) 目標の達成状況・成果

【達成状況】

今回の講座では、従来おこなってきたCan-do型授業の要点の確認と、誤解されやすいCan-do-statementsの問題を主としてテーマにしなが、具体的な授業活動について認識してもらうことを主とした。理論や技術の概説に終わらず、AT(アシスタント・ティーチャー)などの実演を通して、具体的な授業手順や、指導の際の技術、留意点なども示したので、受講者からはわかりやすかったとの感想があった。また、上記の内容に加えて、今回は特に「日本語ボランティア団体」という組織についての問題についても検討した。これは、より効果の高い指導法を目指すという方向性を、推進するも閉ざすも、団体全体の意思決定に依るところが大きいという問題からの考察である。個人ではよかれと思って新しい試みに挑戦しても、組織全体からは勝手な個人プレイと見做されてしまうような問題が、特にどの団体においてもネックとなっていることが問題視された。このような組織の様々な問題については、今回の講座の中だけでは当然、そのすべてが解決されたわけではないが、どこに問題が生じやすいのか、またそれに対してどのような考え方があるのか、ということをもまずは共通認識できたことは、大きな成果であったと言える。

【受講者の反応】(毎回、講座の記録者が客観的視点から状況を記録し、後で運営委員会で内容を吟味・整理した)

- ・受講者がそれぞれに頷いたりしていた。高い関心を持って、聴講しているのがよくわかった。
- ・Can-doについて、すでに知っている受講者と知らない受講者が混在しているが、いずれも集中して講義を聞いていた。
- ・グループワークでは、活発な話し合いがされていた。
- ・グループワークでは、積極的に身近な問題点を発見し真剣に話し合っていた。
- ・講師は軽い質問をして受講者の反応・理解度を見ながら、わかり易い授業を展開していた。Can-do型授業について初めて知る人も相当数いたようだ。
- ・デモンストレーションでは、AT(アシスタント・ティーチャー)の実技をわが身に置き換え、講師の模範授業の素晴らしさに感心していた。
- ・講師の活動への取り組み方に、受講者は啓蒙されたようだった。語学指導ではアウトプットとインプットの両方が必要であることが特に理解されていたようだった。
- ・始まりと終わりの講師の話(ボランティア団体の中での人間関係の難しさ、大切さ)に 受講者の思いが代弁されていた。ほとんどの受講者が大きく頷いていた。
- ・模擬授業で受講者の関心は最高潮に達した。前回に比べ、内容は格段に洗練されていた。それでもテレビのクイズ番組さながらの講師のNGボタンの音に、受講者一同、AT(アシスタント・ティーチャー)を我が身に置き換え、沸き立っていた。学習者役の受講者も好演だった。
- ・今回の授業は、受講者自身の活動に直接かかわる内容だったので、授業を通して自己分析、団体の ありようや関わり方など振り返りの良い機会となった。グループワークが多かったことも好評だった。

(11) 改善点について

- ・授業の途中で、「そもそも『Can-do』ってどういう意味ですか。」と質問した受講者がいた。講座の回を重ねるごとに、かなり進んだ知識を持っている受講者もいれば、「Can-do」という言葉を初めて聞くというレベルの受講者もいる。こうしたレベルの混在状況にどう対処していくかが今後の課題の一つと思われる。
- ・模擬授業について、よくあることだが、日本人が外国人学習者の役をするのは、日頃、外国人学習者を観察しているはずであっても難しいようである。外国人がしない間違いをしてみせたり、外国人ができないことを簡単にやってしまうということでは、模擬授業とは言っても実際の授業状況の再現とはならない。実際の外国人に参加してもらうなどの工夫もあってよいかも知れない。
- ・講師がタスクを与えてのグループワークでは、しばしばその結果に対する講評や討論の時間が足りなくなる場面もあった。今後は時間配分や、タスクの内容などを考慮する必要も感じる。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称

Can-do型授業を導き、その効果を確認する教材の作成

(2) 対象

原則として来日後、短期間しか経ていない地域在住の外国人(6ヶ月未満。国籍・年齢は問わない)のクラスを中心とし、他にレベルの異なるクラス(来日6ヶ月～1年)も複数対象とする。

(3) 目的・目標

「Can-do型授業の本時のポイントと授業活動の流れを明示する教材を作成する」とし、且つ「授業の終わりに、本時で行った学習の要点とその成果を自己評価できる振り返りシートを作成する。」こととする。また「学習者の振り返りシートを吟味することによって、教師も間接的に評価されるような様式を工夫」についても目標の一つとする。

(4) 構成・総ページ数

- ・A1クラス(初級前編)、1回2時間で10回分
- ・A2クラス(初級後編)、1回2時間で10回分
- ・Bクラス(上級)、1回2時間で10回分
- ・総ページ数 293ページ

テーマ設定

A1クラス・Bクラスともテーマは共通

- 第1回 自己紹介
- 第2回 病院
- 第3回 駅
- 第4回 買い物1
- 第5回 誘う・断る
- 第6回 飲食店
- 第7回 交番
- 第8回 買い物2
- 第9回 災害
- 第10回 薬局

A2クラス

- 第1回 待ち合わせ
- 第2回 事故
- 第3回 電話
- 第4回 面接
- 第5回 料理
- 第6回 電車
- 第7回 タクシー
- 第8回 郵便局
- 第9回 美容室・クリーニング店
- 第10回 旅行代理店

(5) 教材作成会議の開催について

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成25年9月24日 15:30～18:30	3時間	聖徳大学10号館5階教室	北村弘明／真鍋昌子／西澤清江／小宮山まり子／中内薫／油川美和 藤沢明美	1. 教材班メンバーの紹介 2. これまでの文化庁委託事業教材班活動の振り返り 3. 今後の教材班の取り組みについて 4. 今後の教材作成会議の日程について	1. 教材作成班メンバーの紹介 2. これまでの文化庁委託事業教材班活動の振り返り ①昨年度作成テキストの反省点、問題点など 3. 今後の教材班の取り組みについて ①取り組みの名称、目的の確認 4. 今後の教材作成会議の日程について ①日程確認
2	平成25年10月23日 15:30～18:30	3時間	聖徳大学北村研究室	北村弘明／真鍋昌子／西澤清江／小宮山まり子／中内薫／油川美和 藤沢明美	1. 教材の具体的な検討 2. 文字表記に関するルールの共有 3. 形式についての情報共有	1. 教材の具体的な検討 ①提示スキットの話者表記について。 ②場面の会話が引き出せるようなイラストとは。 2. 文字表記に関するルールの共有 3. 形式についての情報共有 ①教材の作成チェック

3	平成25年11月26日 15:00～18:00	3時間	聖徳大学北村 研究室	北村弘明／真鍋 昌子／西澤清江 ／小宮山まり子 ／中内薫／油川 美和 藤沢明美	1. 作成中の教材の配布と改善への検討 2. 教材作成上における表記の確認 3. 次回教材作成会議について	1. 作成中の教材の配布と 改善への検討 ①担当者作成教材の検討 2. 教材作成上における表 記の確認 ①表記や言葉の統一 3. 次回教材作成会議につ いて ①作成状況を確認のうえ、 日程調整
4	平成25年12月3日 15:00～18:00	3時間	聖徳大学北村 研究室	北村弘明／真鍋 昌子／西澤清江 ／小宮山まり子 ／中内薫／油川 美和 藤沢明美	1. 作成中の教材の配布と改善への検討 2. 文型と教具・教材について 3. 振り返りシートの作成について	1. 作成中の教材の配布と 改善への検討 ①教材の検討 2. 文型と教具・教材につい て ①機能、性質、目的などか ら分析 3. 振り返りシートの作成に ついて ①振り返りシートの検討
5	平成25年12月17日 15:30～18:30	3時間	聖徳大学8号館 会議室8504	北村弘明／真鍋 昌子／西澤清江 ／小宮山まり子 ／中内薫／油川 美和 藤沢明美	1. 作成中の教材の配布と改善への検討 2. 最終版に向けての調整について 3. 文型機能型文例集作成について 4. 提出締め切りについて	1. 作成中の教材の配布と 改善への検討 ①完成をめざし、細部の調 整。 2. 最終版に向けての調整 について ①配置について調整。 3. 文型機能型文例集作成 について ①目的について 4. 提出締め切りについて

(6) 使い方

Can-do型授業を円滑に導くため、以下のような用い方を基準とする。

- ①場面提示……主として活動場面の全体、場所を限定した「写真・図」を掲示
- ②スキット1……指導者と補助者でスキットを演じ、「会話パネル」を掲示
- ③練習1……「会話パネル」を掲示
- ④練習2……「会話パネル」を掲示
- ⑤単語の意味と発音……①の場面でおこなってもよい
「絵パネル」「文字カード」の掲示
- ⑥応用練習……ロールプレイをおこなう
「役割・発話内容を指示したロールプレイカード」「補助具」
- ⑦発展練習……本時のテーマに関連した発展練習
教師が予想して用意した「絵パネル/レリア/補助具」など

授業の終わりに「振り返りシート」での評価を実施

■消費活動

一品切れの商品を注文できる 試着したり服などの希望が言える

授 業 活 動 (使用場面)	使 用 教 材
<p>●場面の提示 食料品売り場などについて自由に会話する</p>	<p><写真></p>  <p>①「スーパーの食料品売り場」</p>  <p>②「食料品売り場」</p>
<p>●スキット1 スーパーでどこにあるかわからないものの場所をたずねる。</p>	<p><会話パネル></p> <div data-bbox="671 1220 1295 1559"> <p>A: すみません。[みりん]はどこですか？ B: はい。こちらでございます。</p>  </div> <p>①「～はどこですか？」</p>
<p>●練習 指導者の指示に従って、口頭練習のスキルアップを繰り返しおこなう</p>	<p>先の<会話パネル>①</p>
<p>●単語の意味と発音を知る</p> <p>「取り寄せる」 「売り切れ」 「連絡先」</p>	
<p>●場面の提示</p>	<p><絵パネル></p>

<p>買いたい品物がない場合</p>	<div data-bbox="783 91 1249 387" data-label="Image"> </div> <p>②「売り切れ」</p>
<p>●スキット2-1</p> <p>A：すみません。ツナカンはどこですか。</p> <p>店員：あ、すみません。今売り切れています。</p> <p>A：そうですか。いつ入りますか？</p> <p>店員：明日の10時には入ります。</p> <p>A：それじゃ、また来ます。</p>	<p><会話パネル></p> <div data-bbox="671 499 1305 757" data-label="Text"> <p>A：すみません。ツナカンはどこですか？</p> <p>店員：あ、すみません。今売り切れています。</p> <p>A：そうですか。いつ入りますか？</p> <p>店員：明日の10時には入ります。</p> <p>A：それじゃ、また来ます。</p> </div> <p>先の<絵パネル>②</p>
<p>●スキット2-2</p> <p>商品を取り寄せてもらう</p> <p>A：すみません。〇〇はどこですか。</p> <p>店員：すみません。今ここにはないですね。</p> <p>A：そうですか。</p> <p>取り寄せていただけますか？</p> <p>店員：はい、それではこちらへどうぞ。</p> <p>ここにお名前と連絡先をお書きください。</p>	<p><会話パネル></p> <div data-bbox="671 920 1337 1207" data-label="Text"> <p>A：すみません。〇〇はどこですか。</p> <p>店員：すみません。今ここにはないですね。</p> <p>A：そうですか。</p> <p>取り寄せていただけますか？</p> <p>店員：はい、それではこちらへどうぞ。</p> <p>ここにお名前と連絡先をお書きください。</p> </div> <p>③「取り寄せる」</p> <p>先の<絵パネル>②</p>
<p>●練習1</p> <p>指導者の指示に従って、口頭練習のスキルアップを繰り返しおこなう</p>	<p>先の<文字パネル>② ③</p>
<p>●練習2</p> <p>指導者の誘導（内容・役割・指示など）で会話練習をする。</p>	<p>先の<文字パネル>② ③</p>
<p>●練習3</p> <p>各自、自由に個人練習する</p>	
<p>●練習4</p> <p>学習者同士、スキットを演じる</p>	
<p>●場面</p> <p>わからなかったり、読めなかったりする 価値を問う</p>	<p><絵パネル></p> <div data-bbox="671 1832 1082 1915" data-label="Image"> </div>



③「いくらですか？」

<写真>



③「居酒屋メニュー」



④「寿司屋値段表」

●漢数字の読み方を知る
わからないときは、わかる学習者に聞く

<文字カード> 「値札」

六百八十円	六百八十円	六八〇円	680円
九十九円	九十九円	九九円	99円
			時価

●スキット3
わからない値段を聞く
A: すみません。これはいくらですか？

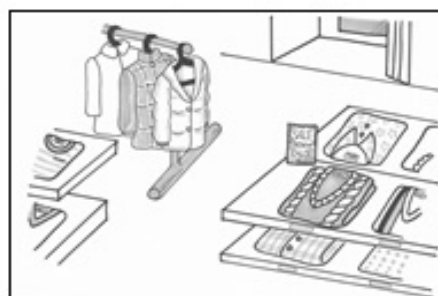
先の<絵パネル>③
<文字カード> 「値札」

●練習1
指導者の指示に従って、個々に口頭練習
のスキルアップを繰り返しおこなう

先の<絵パネル>③
<文字カード> 「値札」

●場面（衣料品売り場）を提示する
服を買う場面をイメージする

<絵パネル>










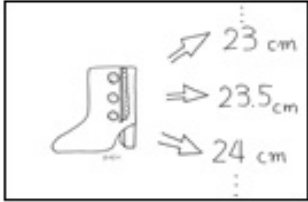
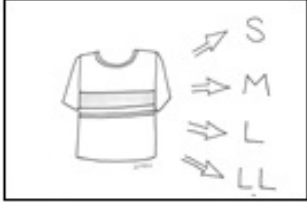

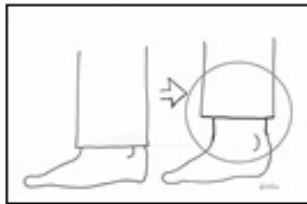

③「衣料品売り場」

●単語の意味と発音を知る
帽子、靴、ネックレス、服、スカートなどを示しどの着脱動詞を使うかを確認する
「試着」「脱く」「かぶる」

<絵パネル>



<p>「試着室」 「履く」 「かぶる」 「つける」 「着る」 「試着室」 「帽子」 「コート」 「スカート」</p>	<div data-bbox="671 85 978 147">  </div> <div data-bbox="1010 85 1316 147">  </div> <div data-bbox="671 147 978 394">  </div> <div data-bbox="1010 147 1316 394">  </div> <p>④「帽子」 ⑤「靴」</p> <p>⑥「コート」 ⑦「スカート」</p> <p><文字パネル></p> <div data-bbox="671 521 858 607"> しちゃう 試着 </div> <div data-bbox="898 521 1083 607"> は 履く </div> <div data-bbox="1129 544 1353 607"> かぶる </div> <div data-bbox="671 629 903 692"> つける </div> <div data-bbox="946 607 1131 692"> き 着る </div> <div data-bbox="1177 607 1362 692"> しちゃうしつ 試着室 </div>
<p>●場面（試着）の提示</p>	<p><絵パネル></p> <div data-bbox="671 864 978 1066">  </div> <p>⑧「試着する」</p>
<p>●スキット4</p> <p>A：すみません。 着てみてもいいですか 店員：はい。こちらどうぞ。</p>	<p><文字パネル></p> <div data-bbox="671 1167 1353 1323"> すみません。 （着て）みてもいいですか？ </div>
<p>●練習1 指導者の指示に従って、口頭練習のスキルアップを繰り返しおこなう</p>	
<p>●練習2 指導者の誘導（内容・役割・指示など）で会話練習をする。</p>	<p>先の<絵パネル>④ ⑤ ⑥ ⑦</p>
<p>●単語の意味と発音を知る</p> <p>「素材」 「デザイン」 「サイズ」 「いろいろがい」 「帽子」</p>	<p><絵パネル></p> <div data-bbox="671 1704 978 1906">  </div> <div data-bbox="1034 1704 1340 1906">  </div> <p>⑨「いろいろがい」 ⑩「帽子」</p>

<p>「サイズ」 「S」「M」「L」「LL」 「～センチ」 「長くする」 「短くする」</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>㉑ 「サイズ（靴）」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>㉒ 「サイズ（服）」</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>㉓ 「長くしてください」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>㉔ 「短くしてください」</p> </div> </div>
<p>●場面の提示</p> <p>試着したもののサイズが合わない</p>	<p><絵パネル></p>  <p>㉕ 「もうすこし・・・の」</p>
<p>●スキット5</p> <p>サイズが合わない時 （指導者が大きいカーディガンを着てみせる）</p> <p>A：すみません。もうすこしちいさいのはありますか？ 店員：はい。こちらはいかがですか。 A：これにします。</p>	<p><文字カード></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> もうすこし[ちいさいの]は <u>ありますか</u>？ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> [ながく]して <u>ください</u> </div> <p><レアリア>「カーディガン」（サイズが大きいもの） 先の<絵パネル>㉑ ㉒ ㉓</p>
<p>●練習1</p> <p>「ちいさいの」に入る部分を考える</p> <p>学習者から出たものを板書する</p>	<p><板書></p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> もうすこし </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> ちいさい おおきい はでな やすい みじかい ながい たかい ひくい </div> <div style="font-size: 4em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 5px;"> の の の の の の の の </div> </div> <div style="margin-left: 10px;"> は <u>ありますか</u>？ </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> ほかの 素材 ちがう デザイン ちがう いろ </div>
<p>●練習2</p> <p>学習者から出てきたことばを入れて、□ 頭練習する</p>	<p>先の<板書></p>

名詞、形容詞の違いに注意する	
●練習3 各自、自由に個人練習する	
●応用練習-ロールプレイ 「とても気に入っていますが値段が少し高いです。どうしますか？」 学習者にどうするか意見を言ってもらおう。 諦める／もう少し安くて似たものを探してもらおう 学習者に一人ずつロールプレイカードを提示し、ペアになって「客」「店員」の会話をする	<p><ロールプレイカード></p> <p>形は好きだけど、色が嫌い</p> <p>色は好きだけどサイズが小さい</p> <p>デザインはいいけど 値段が高すぎる</p> <p>サイズはいいけどデザインがイマイチ</p> <p>デザインも値段もいいけど、色が好きじゃない</p> <p>デザインもサイズもいいけど、素材が嫌い</p> <p>色もサイズもいいけど長すぎる</p>










「振り返りシート」での評価

●「振り返りシート」実施への確認・整理作業 授業の最後に実施する「振り返りシート」での評価の前に、本時の授業活動のポイントを、再度 指導者が示し、確認・整理する	(本時で使用した教材で、確認・整理に必要なものを提示)
●「振り返りシート」を使用した本時の整理・確認 指導者が振り返りシートを配付し、そのチェック項目の内容・答え方を示しながら、学習者に本時の整理・確認を促す	<振り返りシート> 以下に示すもの
●「振り返りシート」への評価 学習者の「振り返りシート」への答えに対して、指導者がそれを評価する ※振り返りシートは原則として、学習者に渡し、ポートフォリオとして保存させる (回収して評価するのか、その場で評価して持ち帰らせるかは、ケースバイケースで判断する)	<振り返りシート> 以下に示すもの

■振り返りシートー本時のために指導者が事前に作成したもの

4. 買い物をするー1 (V.2)

【 今日学習したこと 】 年 月 日 名前

1	<p>あたらしく おぼえた ことば</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>()</p> </div> </div>
2	<p>言いましょう。書きましょう</p> <div style="margin-top: 10px;"> <p>①</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>客：すみません。 _____</p> <p>_____</p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>②</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>客：すみません。 _____</p> <p>_____</p> </div> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>③</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>客：すみません。 _____</p> <p>_____</p> </div> </div> </div>
	<p>指導者のコメント</p> <div style="height: 60px;"></div>

<指導者の活動メモ>

1. 指導者がヒントを与え、それにあう絵を選び括弧に番号とそのヒントに合う単語を書く。

- ① ちょっと長いです。
- ② ちがう色が欲しいです
- ③ 着てみます
- ④ 靴のサイズは？
- ⑤ ちょっと短いです
- ⑥ これが欲しいですが、大きさが合いません

【期待する解答】発音した言葉と文字（ひらがな）の一致。特殊音素などが正しく発音できる。

- ① みじかくする
- ② いろちがい
- ③ しちゃくしつ
- ④ せんち
- ⑤ ながくする
- ⑥ さいずちがい

2. 指導者が店員になって会話する。会話したことばをひらがなで書く。

【期待する解答】発音した言葉が正しくひらがなでかける。

- ① すみません。〇〇は どこですか
- ② これ、しちゃくしても いいですか
- ③ ちょっと ちいさいんですが もうすこし おおきいのは ありますか
など

(8) 成果物の添付
別添

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ① 外国人の生活行動の支援となるCan-do型授業の具体的な展開の仕方を研修する。
- ② 日本語ボランティア組織に、“生活支援となり得る日本語指導”という観点が無理なく受け入れられる施策を検討する。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

・従来から進めてきたCan-do型授業のあり方をより具体的に認識できるようになったという声が、日本語教室の指導者や、教員養成講座の受講者から聞かれたのは、大きな目標達成の一つである。日本語教室の学習者からも、Can-do型授業を歓迎する者が次第に増加している。

・ボランティア日本語教室での組織の問題を取り上げたが、その根本的な問題については、異なる地域、異なる団体間で、ある一定の共有認識が出来た。その具体的な解決策こそ、簡単には見出せなかったが、組織論について重要な問題を検討できたことは大きな成果だったと思われる。

・指導者が「対話型」で授業を進めることの効用は理解されたが、最初は単なるインタビュアーになってしまうことが多かった。次第に、一方的な質問者から、話題を学習者と共有しながら授業を進めていけるコツをつかめるようになった者が増えたのは一つの成果であった。

・指導者も目の前の学習者に一個人の人間としての目を向けて指導するようになり(相手の反応を正しく見るようになり)、従来の自分の教え方ばかりを気にする姿勢からの変化がみられるようになった。

現在、千葉県東葛地区を中心とした日本語ボランティア教室の多くが、従来のただ単に構文指導用教科書を最初から順番にたどっていくことに終始しがちだった指導法を何とかしたいという認識を持ちつつある。まさに「教科書を教える」指導になっていた指導から、外国人の生活支援となる日本語力にシフトしなければならない、という声は大きくなりつつある。しかし、一方でそのこととは別に、会話力とは「文法と単語をきっちり覚えれば自然と身につくはずだ」という理念の信奉者も多い。自分たちの指導法は決して間違っていない、という思い込み型の指導者も実際にはかなり多いのである。

こうした中で、実際に学習者の日本語レベルをチェックすると、「教科書の進度」＝「日本語能力の育成」には必ずしもなっていないことが多く、また、ボランティア主導型の授業が、学習者が望んでいる授業に柔軟に応えられていないという弊害も起こっているのは事実である。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

今でも「標準的なカリキュラム案」は使えない、とか、難しくてわからない、とかいう声も多く聞かれる。しかし、ボランティア日本語教室などでの日本語指導の目的が本来どこにあったのか、という根本的自省を促すという点で、大きな契機となったことには間違いない。日本語指導がいつの間にか日本語学習塾のような様相を帯び、指導者の方でも「お勉強を教えてあげているという立場」に慣れてしまって、その本来の大きな目的が「生活支援」にあったことを忘れかけている面もあった。

しかし、現実では「標準的なカリキュラム案」で示された日本語を使つての種々の目標を、具体的に展開する日本語会話例に思い当たることは、かなり難解だと考えられているところが大きいことは事実である。

「カリキュラム案」に示された理念や授業展開を、地域の実情などから具体的に構築していくという作業は、ボランティア日本語教師には、相当重荷に感じられているようである。しかし、外国人の生活行動の種類や分類などは、日本語指導の基礎となるもので、行動を可能とする標準的な日本語表現を想起させていくという手法を出来るだけ円滑に行える手法を研鑽できるような工夫が求められている。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の事業では、特に教員養成講座で、他市、他団体の受講者が互いに知り合えてよかったとの感想が殊多かった。それは、テーマに「組織論」を掲げたことも一因であろうが、加えて、今日ではどの組織でも先の「標準的なカリキュラム案」をどう活用していくか、ということが課題となっているからである。他の組織がどのような取り組み方をしているか、との情報が今ほど求められているときはない。

ディスカッションやワークショップでの触れ合いは、ともすれば一組織内で生み出される閉塞感を、幾分かでも解放させたのではないと思われる。今後も、多くの組織の連携、情報交換等の促進を進めていくためにも、こうした事業の寄与が大きな力になることと期待される。

(5) 改善点、今後の課題について

今回、3つの取組を通じてCan-do型授業(希望する生活行動が“できる”ようにする授業)が「生活者としての外国人」という観点からは、まさに中心となるべき理念であると確認されたが、一方でまだこうした授業を円滑に運ぶための教科書・教材がほとんどないという現状が、ボランティアの指導者たちの活動を停滞させている面があると強く感じた。

また、こうした新しい取組に挑戦しようとする活動を、「組織の統一」という暗黙の力が妨げてしまうという問題が最後まで残ることが、特に教員養成講座で多く指摘された。組織全体で、向上を求める方途が、意外に難題である点は、今後の大きな課題である。一つの団体・組織で問題を抱え込むのではなく、今後は各団体・組織がより情報を共有し合えるネットワークを形成し、より広がりを持った視野から問題を眺望できる体制を作っていくことが肝要であると思われる。

(6) その他参考資料

【日本語教室】のアンケート(学習者の声を指導者が口述筆記したもの)

- ・毎回、先生がいろいろな工夫をして教えてくれるのでおもしろかった。
- ・先生の準備が大変だと思ったが、私たちは楽しく学べた。
- ・生活ですぐに役に立つというテーマがよかった。
- ・私たちが「言いたいこと」について教えてくれた。
- ・質問にはいつも丁寧に答えてくれた。
- ・ときどき私の質問と違う答えもあった。
- ・毎回、教室に来るのが楽しみだった。
- ・先生によって教え方がかなり違うと感じることもあった。
- ・楽しく学べました。ありがとうございました。
- ・最初は勉強のやり方がよくわからなかったが、だんだんわかるようになった。
- ・授業の終わりにやる「振り返りシート」がよかった。
- ・「振り返りシート」はむずかしかった。
- ・今日のまとめができるので、「振り返りシート」は大切だと思う。
- ・「振り返りシート」をする時、先生の質問がよくわからないことがあった。
- ・ときどき、今日のテーマから変わってしまうこともあった。
- ・みんなでいっしょにやったコミュニケーション・ゲームがおもしろかった。
- ・「使える日本語」という意味がわかった。
- ・たくさん質問する人がいて、時間がとられた。
- ・私の生活に役に立たないと思う会話もあった。
- ・先生が話をよく聞いてくれるので、感謝している。
- ・先生はいつも楽しそうに教えてくれたのでよかった。

【教員養成講座】のアンケート(毎時、受講生に課すレポート記述によるもの)

＜授業中、特に印象に残った点＞

- ・Can-do型授業の運用に当っては、対話型授業が必要であり、その部分で教師の能力が強く要求されると思う
- ・グループディスカッションでCan-do型授業をされた方の話では市販のテキストは使わず、手作りのテキストを用いたとのこと。そうだとすると、授業の継続に不安を覚える
- ・研修講座に参加していないメンバーにCan-do型授業について説明することは困難も知れない。但し、個人的にはできるだけ早く取り組んでみたい(松戸の教室に見学に行くことにしたい)
- ・Can-do型授業に慣れる必要を感じた(予習、補助物品など)
- ・組織を個人の方向性に持っていくのは時間とエネルギーが必要。場合によってはきわめて困難。自分の存在位置はどこにあるか考えてみる
- ・ディスカッションできたことはありがたかった
- ・対話型授業であっても教科書が大事だということ
- ・学習者が中心なのだから、学習者にイメージしてもらうことの大切さに気付いた
- ・Can-do型授業にたいへん興味があり、実践した。私がタクシードライバーになり地図を見せて会話、学習者がたいへん乗ってきて楽しい授業ができた
- ・組織ではできないが、個人レベルではできることがわかり、これからはCan-doを入れながら授業をしていきたいと思っている
- ・Can-do型授業の実演が印象に残った
- ・今回の10回の講座でCan-do型授業の実像が少しずつ理解できたと思う
- ・外国人が参加する対話型授業を心がけること(教師がしゃべりすぎない)
- ・楽しい会話が良い在り方
- ・意味のわからない会話については教師は補助的手段を用意し、考えながら情報を外国人と共有することが大切
- ・場面設定に戻ることが大切。道すじをそれない。
- ・Can-do型授業の「場面シラバス」の中には「機能シラバス」やコミュニケーションも入っているのではと思った
- ・Can-do型授業で勉強した学習者が自立学習へ進んでいけるようにするのは大変だと思いました
- ・組織の改革、変革は個人の考えがあるので勉強した通りに行なえるかとても不安です
- ・Can-do型授業に転換する時期を迎えながら、改善の方向へ進まないのはそれなりの原因や問題点があるということが分かってきたが、それをどうすればいいかが大きな課題である
- ・現状のあるがままの姿を客観的に正しく判断することが大事
- ・日本語ボランティアは単なるサービス業ではなく人助けである
- ・Can-do型授業の実践を見せてもらい、ためになった
- ・授業の進め方の手順がわかったこと

①「今の場面はこれ(ここ)です」と提示し、②対話型おしゃべり(3分)をしながら学習者のモチベーションをあげて今日のテーマへ導いていく。これがコミュニケーションの訓練にもなっていること

・対話型授業で気をつけること

①教師がしゃべりすぎないこと ②教師がインタビュアーであってはいけないこと ③教師は補助手段を工夫しながら学習者にわかるようにしていくこと

- ・Can-do型授業の実施と組織運営との関連の必要性が理解できました
- ・ロールプレイを通しての先生のアドバイス
- ・対話型授業の重要性(2原則)
- ・評価について(あるがままの正しい評価、客観的に)
- ・ロールプレイの実習で場面設定→発話の進め方が参考になりました
- ・対話型の模擬授業は参考になった
- ・どのように実践していくのか今一度Can-doのやり方を学ぶ必要有り
- ・従来のもとの切り替えをどうするか問題
- ・Can-do型授業についてのニーズの拾い出しのむずかしさ、複数受講者のとき共通テーマを取り上げる難しさ
- ・コミュニケーション、対話型授業をするときに、補助手段を上手に制限することが大切
- ・評価は客観的に計ることができる
- ・外国人のニーズは変わる→こまめにニーズチェック!
- ・“聞き上手”は“話し上手”→聞いた言葉を共有できるかどうかポイント
- ・学習者と話題、概念を共有しながら授業をする→コミュニケーション
- ・Can-do型授業の模擬授業はたいへん参考になりました
- ・Can-do型授業の楽しさが伝わりました
- ・Can-do型授業を全面的に実施するのは困難だが、対話型を意識してやっていこうと思います
- ・教え方が上手な人はコミュニケーション能力が高い。コミュニケーション能力が高い人は「聞き上手」であり「話し上手」である。聞き上手には聞いたことに対する返答も含む
- 自分の教え方もティーチングトークになっているのではないかと反省させられた
- ・ニーズ調査は1回ではなく(学習者のニーズがどんどん変化していくので)何度もすること
- ・評価とは現状のあるがままの姿を正しく判断すること
- ・教師はしゃべりすぎない、インタビュアーにならない
- ・個人的にcan-do、対話型授業の原型はブラックパンサーの授業、その垂流としてのセサミストリート番組がヒントかなと思っていたが、それを超える最前例に出会えなかった

- ・説明型の授業から運用型授業へ転換していく時期に来ている
- ・学習者と対話しながら授業を進めていく
- ・指導者がしゃべりすぎず学習者の発話をうながす
- ・Can-do型授業のポイント2つがわかり、少し手がかりがつかめました
- ・実際にCan-do型授業ができるまでには相当時間がかかりそうですが、少しでも今の授業に取り入れたいと思います
- ・自分にどれだけのことができるかわかりませんが、今活動している公民館でもCan-do型の授業に移行していけるように話し合っていきたいと思います
- ・コミュニケーション能力が高い人は、相手が気持ちよく話せるように仕向けられること。聞き上手は話し上手
- ・学習者を子供扱いしない
- ・「マス形」のみ使っているとティーチャーズトークになってしまいがち
- ・自分の発言の仕方でも常に意識しながら話すことが必要
- ・好き嫌いでなく客観的に現状のあるがままの姿を正しく判断することが評価である
- ・学習者が参加しやすくするために楽しい対話型で進めること、教師がインタビュアーにならずベラベラしゃべりすぎない。学習者にわからせるために補助手段を使って話すと良い
- ・今回の研修で「対話」「リアクション」のイメージが改善された
- ・自分が行っていることよりはもっと細やかで実質的なことだと思った
- ・実践的な運用能力の育成
- ・対話型から目的の場所へ誘導していく、そして目的を達成することができる→Can-do
- ・対話型－外国人と一緒に作り上げていく
- ・言語学用語の日本語化: 英語学の影響が強いので翻訳しても不自然なことが多い。英語でそのまま覚えるのが良い
- ・場面によって言葉遣いを使い分ける能力
- ・実践的な言い方(Can-doが有効)
- ・文法知識型→実践的運用型
- ・現状をあるがままに判断する(客観的で正しく)→評価
- ・場面設定とシナリオ: 対話型授業、教師がしゃべりすぎない
- ・学習者のニーズを授業の中で確認する
- ・場面を学習者と共通し、モチベーションを持たせる、高めることが重要
- ・このためには学習者に話させることが大切(対話)
- ・組織としてCan-do型授業を目指していくためのヒントを得ることができて良かったです
- ・場面設定→自然に中心テーマに(学習者とともに、意識させずに)導いていくのが難しそうです
- ・テーマの設定は嶋田先生の一覧表を参考にさせていただきます

- ・受講者からの質問に対する解説がよかった
- ・Can-do型授業の模擬(大変興味深かった)
- ・グループディスカッションで他市の方の意見が聞けて良かった
- ・他市の方の意見は自分の市を考えるのにとっても良いと思った
- ・評価は「正しく客観的な判断」という定義
- ・ディスカッションの時、いろいろ困っている例が出てきて、わたしも、そうそうとネガティブな安心をしてしまった
- ・改善点を出し合うところまでなかなか行かない
- ・授業の中でもニーズ調査をすること。どんな手段(母語)を使ってでも聞くようにする
- ・日本語の語彙は乏しくても相手は大人であることを忘れない
- ・母語によるコミュニケーション能力が高い人は多言語においても能力が高い
- ・教師はしゃべりすぎず、学習者とある話題を共有し、楽しい対話の積み重ねによって授業を進めていくこと
- ・心と心がつながってこそ、本当の意味のコミュニケーションが成り立つ
- ・Can-do型授業においては、場面提示から会話の実践に自然に流れるように工夫しなければならない
- ・組織論についてはピンと来ない部分が多かったが、Can-do型授業展開については具体的な例が示され、参考になる部分が多かった
- ・「Can-do型授業と組織運営との関連」については、私たちがやるべきこと、学んだことが完結、明解に説明された。実践現場にて利用させていただく
- ・知識を与えれば言語能力が高まるわけではない
- ・学習者と情報を共有していく授業が大切なこと
- ・対話型授業のイメージを具体的に学ぶことができた
- ・授業全体がコミュニケーション活動である。そういう指導、授業の進行を考える
- ・評価しながらの授業が重要
- ・地域日本語教室だからこそ、実践的運用能力の育成を目指すこと
- ・最近の組織レベルの問題点についてのディスカッションもとても良かった。自分の振り返りにもなったし、他市の様子も分かって良かった
- ・対話から本時の話題に誘導する。学習者と会話のモチベーションを共有し、ともに授業を作り上げていく
- ・心と心がつながるコミュニケーション
- ・地域日本語教育の目的こそ実践的運用能力の育成にあるべき

- ・対話型授業:現実の場面を提示して楽しい対話(反応を入れて)をしながら、そのテーマに誘導していく(その際補助手段が必要)
- ・組織運営に関してのテーマは大いに参考になった(いつか、もう少しつっこんだ議論をしたい)
- ・聞き上手は話し上手ということ。ただし、ただ聞いているだけではなく言葉のキャッチボールができるということ
- ・知識を増やすことがボランティアの目的ではないことをしっかり自覚すること(知識だけを与えても運用能力はつかない)
- ・授業の導入場面ではできるだけ話題をふくらませて本時の動機付けを計ることが大切。そのときジェスチャーなども入れ表情豊かに行うこと→学習者が楽しんで学習する気になる
- ・難行から易業へ。学習者と対話をしていく授業
- ・地域日本語教育の目的は、実践的運用能力の育成
- ・評価＝点数をつけること、ではない
- ・学習者は授業中のコミュニケーションからも学んでいる
- ・Can-do型授業をどのように展開するかを知りたいボランティアは多い。模擬授業を見学できる機会をもっと増やす必要有り
- ・対話で進めていくということ
- ・ボランティアが聞いて応える形になりがちである
- ・改善の方向へのヒントは個人レベル、組織レベルの両方で良い振り返りになった
- ・導入時のイメージを学習者と共有しながらの対話の重要性を再認識した
- ・難行からの脱却、賛成です
- ・組織論について学べたことが本当に良かったです

● 受講者男女比 男性13名 女性27名

市別人数

